



Title	WHOニュース 10月/11月/12月
Author(s)	
Citation	目で見るWHO. 2025, 92, p. 22-27
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/102313">https://doi.org/10.18910/102313</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

10月  
October

## WPRO 新ビジョン提示

西太平洋地域における「西太平洋地域の家族、コミュニティ、社会のための健康を織りなす(2025年～2029年)：健康とウェルビーイングを改善し、命を救うために共に取り組む(仮訳)」という新ビジョンが加盟国に提示される。

## 国連、薬剤耐性の政治宣言を承認

「薬剤耐性に関するハイレベル会合」において政治宣言を承認。細菌の薬剤耐性(AMR)に関連する死亡者数を2030年までに10%削減することを含む明確な目標と行動を約束し、そのために1億米ドルの触媒的資金提供達成を呼びかけている。

## 臨床試験の国際的推奨指針を提示

WHOは、あらゆる所得水準の国々における、医薬品、ワクチン、診断、栄養対策、認知・行動・心理学的介入、予防ケア、デジタルおよび公衆衛生アプローチ、伝統的または植物由来の対策など、健康介入の試験を対象として、臨床試験の設計、実施、監督を改善するための指針を発表。

## 世界メンタルヘルスデー

(2024.10.10)

世界の人口の60%が労働に従事している現在、職場がメンタルヘルスへのリスクを防止し、メンタルヘルスを保護・支援することを確実にするための早急な行動が必要で、労働者の健康と安全に責任を負う政府、雇用者、労働者および雇用者を代表する組織、その他の利害関係者が協力することが不可欠。

## HPVワクチン、追加と事前認証

WHOは、事前認証した4番目のヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンである「セコリン®」の単回投与スケジュールでの使用が確認されたと発表。子宮頸がんを予防するワクチンをより多くの少女たちに届けることを可能にする。なお、WHOはHPVワクチン「Walrinvax®」を2回接種スケジュールで事前認証。このワクチンは世界市場で入手可能な5番目の製品となる。

## WHO、「ネッタイシマカ媒介性ウイルス感染症対策」世界戦略計画を発表

WHOは、デング熱やその他のネッタイシマカ媒介性ウイルス感染症に対処するための「グローバル戦略準備・対応計画」を発表。感染拡大を抑制するための優先行動を概説し、社会全体および地域全体のアプローチを通じて、疾患の監視、

実験室での活動、媒介生物の駆除、地域社会の関与、臨床管理、研究開発などを提言。

## 国際通貨基金、世界銀行グループなど、WHOと協力強化

IMFの「強制性・持続可能性トラスト」協力により、世界銀行グループ(WBG)の財政および技術支援、WHOの専門技術および現地対応能力を通じて、公衆衛生上の脅威の予防、検出、対応に対する各国への支援を拡大することが可能になる。

## WHO、初のmpox診断テストを緊急承認

WHOは、緊急使用リスト(EUL)手続きのもと、最初の体外診断用医薬品(IVD)をリストに追加。Alinity m MPXV アッセイは、膿疱または小水疱の綿スワブからエムポックスウイルス(クレードI/II)のDNAを検出できるリアルタイムPCR検査で、Mpoxyの診断能力の拡大に極めて重要なとなる。

## 性と生殖に関する健康と教育

このトピックでは「性と生殖に関する健康の促進」が教育と学習の目標達成をどのように支援するかを明らかにし、学校全体とシステムアプローチによって介入の利益がどのように拡大できるかを説明

| 注)本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリー  
| ス、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



している。このエビデンスに基づくりソースは、各国の教育、保健、関連部門が国の学校保健プログラムの強化を支援することを目的としている。

## 健康は政府にかかっている！ - 2024 年 UHC デー キャンペーン開始 -

UHCへの投資は、公平性と社会的一体性を向上させる。リーダーたちに健康へのより大きく賢明な投資を行うよう呼びかけ、世界に向けて「Health for All」が人権であり公平で弾力性のある社会を築くための必須事項であることを喚起する。

## ワクチンの有効活用で抗生物質の使用量を削減

AMR は主に抗菌薬の誤用や過剰使用によって引き起こされるが、同時に、世界中の多くの人々が必須の抗菌薬を利用できない状況にある。新しい報告によると、24 種類の病原体に対するワクチンによって、抗生物質の必要量を毎年 22 % まで削減でき、感染を予防し、抗菌薬の使用と過剰使用を減らし、薬剤耐性病原体の出現と蔓延を遅らせるため、AMR 対

策に不可欠な要素となる。

## WHO 青年評議会が大胆な呼びかけ

WHO Youth Council は、初の「健康な社会の創造に関する青年宣言」を世界保健サミットで発表し、教育における若者へのアクセス、公平性、包摂性の実現や健康、気候変動、デジタルリテラシーなど、10 の行動要請を概説。

## パンデミックリスクの変化

2024 年はすでに 17 件の危険な病気のアウトブレイクが発生。そのたびに、既存のパンデミック予防体制や、世界的な感染症アウトブレイクへの対応能力の弱点が露呈。2024 年の 世界健康危機モニタリング委員会 レポート『The changing face of pandemic risk (パンデミックリスクの変化)』は 15 の主要な要因を、社会的、技術的、環境的、経済的、政治的の 5 グループに分類して概説。

## 各国の国會議員、パンデミック協定支持声明

「人権と健康への公平なアクセス、グロ

ーバルヘルス体制と安全保障、医療制度の強化、健康のための持続可能な資金調達」という柱のもと、健康問題に焦点を当て「公平性の確保、グローバルな連帯、各国での立法措置、誤情報の撲滅」などの重要な公約を強調。

## すべては健康のために、健康はすべてのために：投資計画

投資計画では、「健康の提供 (Provide)」「健康の促進 (Promote)」「健康の保護 (Protect)」という GPW 14 のテーマの観点から、主要な政策公約と成果を強調し、4,000 万人の命を救うとしている。

## 西太平洋地域における SDGs のための健康モニタリング報告書

健康関連の持続可能な開発目標概要を提供する 3 回目の隔年報告書。さまざまな保健分野のプログラム指標に関する統計情報を提示しており、大半の国が SDG 目標の達成から外れているという重要な局面を示したほか、COVID-19 パンデミックの影響についても言及。

## 10月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。 <https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・医療廃棄物、・屋外の大気汚染、・水銀、・マールブルグ病、・ポリオ、・トラコーマ、・更年期障害、
- ・家庭の空気汚染、・思春期のメンタルヘルス、・食の安全、・リンパ系フィラリア症、・思春期および若年成人の健康、・高齢化と健康、・電子機器廃棄物、・鉛中毒、・アスベスト、・節足動物媒介感染症、・必須医薬品、・脆弱性骨折

11月  
November

## 「健康的な食事とは？」国連食糧農業機関と世界保健機関による共同声明

健康的な食事は、健康、成長、発育を促進し、活動的なライフスタイルを支え、栄養素の過不足、感染性疾患および非感染性疾患、食中毒を予防し、ウェルビーイングを促進。原則は、良質かつ多様な食品を適切な量とバランスで摂取すること。

## 世界 AMR(薬剤耐性)啓発週間

薬剤耐性感染症の発生と蔓延を減らすためのグローバルキャンペーン。今年のテーマは「教育・擁護・今こそ行動を(仮訳)」。

## WPRO の決議・決定(概要)

地域委員会がマニラで開催され、財政、デジタルヘルス、次回の開催の決議が採択され、西太平洋地域における家族、地域社会、社会のための健康の構築、ヒト生殖に関する研究、開発、研究研修特別プログラム政策調整委員会の委員などが決定された。新しい地域ビジョンで政府が主導し、WHO やその他の関係者と協力して行う 5 つの垂直的な取り組みは、1、ユニバーサルヘルスカバレッジのためのプライマリーヘルスケア、2、気候変動に強い保健システム、3、健康安全保障のための強靭なコミュニティ、4、

生涯にわたる健康、5、健康公平性の技術とイノベーション。また、WHO による 3 つの横断的な活動は、1、各国事務所のスキル拡充、2、地域の機敏な支援チーム、3、公衆衛生のためのコミュニケーション拡大。

## 結核が感染症による死因のトップに再浮上

WHO の「世界結核報告書 2024」では、2023 年に新たに結核と診断された患者数は約 820 万人に上ったことを明らかにした。世界的な結核対策における進展と停滞が混在していることが強調され、結核を発症した人の総数はわずかに増加し、多剤耐性結核は依然として公衆衛生上の危機。深刻な資金不足状態でこれらの問題に取り組むには、複数の部門が連携した行動が必要。

## WHO: 健康問題を早急に気候変動交渉に組み込むよう要求

WHO は COP29 を前に化石燃料への依存を終わらせ人間中心の適応と回復力を提唱し、COP29 特別報告書「気候と健康」と「健康な国別決定貢献」に関する技術的指針を発表した。気候変動の影響を最も受けやすい地域に住む 36 億人を含んだすべての人々を守ることを目的とした主要な行動を概説。

## 100 を超える政府が、「子どもへの暴力をなくす」歴史的な公約を表明

世界中の子供の、およそ半数 10 億人が、体罰を含む児童虐待、いじめ、身体的・精神的虐待、性的暴力など、何らかの暴力を受けていると推定されている。「子どもへの暴力をなくす」という新たで歴史的な世界宣言に、100 を超える政府の代表団が合意の予定。家庭内での体罰を禁止すると誓約した 9 か国も含まれる。

## ワクチン開発の最優先事項として 17 種類の病原体をリストアップ

WHO が e-Bio Medicine 誌で発表した新しい研究は「地域ごとの疾病負担、抗菌薬耐性リスク、社会経済的影响などの基準」に基づき、風土病病原体を体系的に順位付けし、地域社会で定期的に病気を引き起こす 17 種類の病原体が新しいワクチン開発の最優先事項としてリストした。この研究では、特に抗菌薬への耐性が高まっている病原体に対する新しいワクチンの開発が急務であることを強調。

## 麻疹の感染者数が世界中で急増

WHO と米国 CDC の新しい推計によると、推奨されている 2 回目の接種を受けたのは 74% にとどまるなど、世界的な不

注)本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリークス、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



十分な予防接種率が原因で、2022年から1年間で20%増加したと推定され、強力な対策が必要としている。

### 30年間で世界の糖尿病患者が4倍に増加；緊急の対策が必要

「The Lancet」での発表によると、1990年から32年の間に、成人の糖尿病有病率が世界全体で7%から14%に増加したと報告。とりわけ低中所得国で糖尿病率が急上昇、糖尿病患者の約59%が未だ治療を受けていない。1990年以降、未治療の患者数は3.5倍に増加していて、これらの90%はLMICsに居住。糖尿病の負担の急増に対処するため、WHOは糖尿病に関する新たな世界規模のモニタリング枠組みを立ち上げた。

### イスラム開発銀行、WHOや開発パートナーと協力して健康インパクト投資を推進

IsDBからの特別な1,000万ドルの助成金は、最も効果的な保健プロジェクトを設計するための投資ニーズをWHOが査定し、世界各国に資金を提供。このイニシアティブは、気候変動や危機に対する耐性をもつ、プライマリーヘルスケア

サービスとシステムへの投資に重点を置いていて、特に低・中所得国や医療過疎地域における医療システムの強化を目的とし、最終的には新たな健康上の脅威や気候変動への耐性を高めることを目指す。

### WHO:mmpox の新ワクチンを緊急使用リストに追加、日本政府がコンゴに援助

WHOは、日本のKMバイオロジクス社が開発・製造したLC16m8 mmpoxワクチンを緊急使用リストに指定。8月14日のmmpoxに関する緊急事態宣言の後、WHOが指定する2番目のワクチンとなる。日本政府は、コンゴ民主共和国にLC16m8ワクチン305万回分と特殊な接種針を寄付すると発表。これらの決定により、mmpoxのアウトブレイクが急増している地域社会において、ワクチンへのアクセスが増加し、よりタイムリーになることが期待される。

### 世界エイズデー 2024

12月1日は世界エイズデー。テーマは「正しい道を歩みましょう：私の健康、私の権利！(仮訳)」。キーメッセージは、「健康は人権で、予

防は力を与え守る。偏見と差別に対処し、優先順位を付け、脆弱な集団と主要な集団に働きかける。HIVウイルスの抑制を達成するための救命治療へのアクセスを確保しエイズのない未来に向けて前進する」としている。

### 11月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・オロブーシェウイルス感染症、
- ・リンパ系フィラリア症、
- ・クラミジア、
- ・細菌性膿症、
- ・麻疹(はしか)、
- ・糖尿病、
- ・口腔保健、
- ・慢性閉塞性肺疾患(COPD)、
- ・児童虐待、
- ・若者の暴力、
- ・結核



## エムポックスの緊急事態、なお継続

エムポックスに関する国際保健規則(2005) (IHR) 緊急委員会が開催され、事務局長は、この事象が引き続き国際的に懸念される公衆衛生の緊急事態(PHEIC : public health emergency of international concern) であるという委員会の助言に同意した。

## 初の世界口腔保健会議で 2030 年までに UHC の実現を強調

口腔の健康は歯科の健康と誤解されることが多い、その重要性が十分に認識されていない。う蝕(虫歯)、歯周病、歯の喪失、口腔がん、口内炎、先天異常など、最も一般的な非感染性疾患(NCDs)であり、およそ 35 億人が罹患していると推定されてる。

## 感染予防および管理プログラムへの持続的な投資の必要性を強調

Covid-19 が初めて報告されてから約 5 年が経過した。現在、71 % の国が積極的な IPC (infection prevention and control) プログラムを実施しているものの、現在までに WHO IPC の最低要件をすべて満たした国はわずか 6 %。

## フィリピンと太平洋諸島が健康

## 安全保障のために医療従事者を強化

フィリピン政府による太平洋諸島諸国および地域と WHO との新たな「フィリピン・太平洋保健イニシアティブ」で、この地域における医療従事者不足への取り組みに対する共通のコミットメントを確認。

## 規格外・偽造医薬品に対するグローバルな監視・モニタリングシステム活動報告書

2017 年から 5 年間にわたる、規格外および偽造(SF: substandard and falsified) 医薬品に関するグローバル監視・モニタリングシステムの報告。幅広い必須医薬品を含む事故記録が年平均 36.3 % の増加となっており、抗菌薬耐性增加への潜在的な影響は軽視できない。

## 未診断の疾患 - コンゴ民主共和国

2024 年 10 月 24 日から 12 月 5 日までの間、コンゴ民主共和国の一地区では、発熱、頭痛、咳、鼻水、身体痛の症状を伴う原因不明の病気が 406 件報告され、31 人が死亡。

## 難民と移民の健康促進に関する WHO 世界行動計画 2019 ~ 2030

2019 年 5 月の第 72 回世界保健総会

では、難民と移民の健康増進に関する世界保健機関(WHO)のグローバル行動計画グローバル・アクション・プランを 2030 年まで延長することに決定。

## WHO、結核診断検査の初の事前認証を発表

結核、特に薬剤耐性菌の正確かつ早期発見は、今なお優先事項であるが困難な課題。WHO は、結核の分子診断検査である Xpert ® MTB / RIF Ultra に事前認証を付与。喀痰から結核菌の遺伝物を検出すると同時に、リファンピシン耐性に関連する変異を特定。結核診断の重要なマイルストーンとなる。

## 気候変動に対応した、移民・難民のための保健システム構築

WHO は COP 29 で、気候変動、移住、避難、健康の相互関係について議論する重要なハイレベルイベントを開催。気候変動に強く、移民や難民も受け入れることのできる健康システムの構築に向けた各国の戦略と課題について、健康、気候変動、移民の 3 問題を同時に解決するためのエビデンスに基づく政策の推進と協力体制の構築の緊急な必要性を強調。

## WHO の新報告書：各国政府が医療費支出の優先順位を下げている

「2024 年グローバルヘルス支出報告書」によると、パンデミックの初期に急

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、QRコードを利用して、日本WHO協会のホームページ経由で、ニュースリリークス、声明、メディア向けノートなどの原文にアクセスできます。



増した各国の国民一人当たりの政府による平均医療支出は、2021年から2022年にかけて減少。

## 世界マラリア報告書

2024年11月現在、44カ国と1地域がマラリアフリーの認定を受けているが、マラリア流行国は83カ国で、2000年の4カ国から増加。対策への資金調達は不十分で、気候変動、自然災害、紛争、暴力、人口移動が健康上の不公平をさらに悪化させている。

## 世界中で「成人の5人に1人以上」が性器ヘルペス感染症に罹患

WHOの推計によると、15～49歳までの約8.5億人が性器ヘルペスに感染している。HSV-1は主に小児期に唾液や皮膚と皮膚の接触により感染するが、「感染歴のない人では性的接触により感染し、思春期や成人期に性器への感染を引き起こす」ことがある。コンドームを適切かつ一貫して使用することで、感染リスクを低減することができる。

## 溺水防止に関する初の報告書

WHOは、溺水防止に関する初の報告書

を発行。溺死防止には社会全体が連携した対応が必要であることが強調され、溺死防止に向けた世界レベルでの成果と課題をまとめている。

## WHOアカデミー開設

WHOアカデミーの開所式がフランス・リヨンで開催。アカデミーは、新しいテクノロジーを活用し最新の科学的教育法を利用することで、加盟国が医療従事者の訓練における様々な問題に対処できるよう支援し、質の高い学習の機会を、指導者、教育者、研究者、医療従事者、WHO職員そして一般の人々にオンラインと対面式で提供。

## 質の高い統合医療サービスを実現するコミュニティの関与における関係性

『地域社会の関与における関係性：全人的医療と質の高い統合医療サービスの実現におけるその役割』と題された新しい報告書が、世界健康イノベーションサミット(WISH)で発表された。

## 国際疫病対策の日(12月27日)

12月27日は国連が定める「国際疫病対策の日」。WHOは、与えられた権限

により感染症への対応を調整する上で極めて重要な役割を果たしており、感染症や流行病の予防、緩和、影響への対処に向けた各国、各地域、国際社会の取り組みを支援している。

## イスラエルとパレスチナにおける紛争

WHOは、最も緊急を要する健康ニーズに対応するため、パートナーと協力し、医療システムの継続的な機能維持を支援し、救命物資の提供、外部からの医療支援の組織化、疾病アウトブレイクの監視と対応を行い、すべての当事者に対し、自国民の健康を守り、医療への安全なアクセスを確保するよう強く求め、最終的な平和を呼びかけている。

## ルワンダにおけるマールブルグ流行終息宣言

ルワンダ政府は42日間新たな患者が発生していないことを受け、マールブルグウイルス病のアウトブレイクは終息したと発表。

### 12月のWHOファクトシート改訂項目

以下のファクトシートが改訂されています。詳しくは当協会のファクトシートのサイトをご覧ください。<https://japan-who.or.jp/factsheets/>

- ・リフトバレー熱、・溺水、・マラリア、・単純ヘルペス、・コレラ、・ラッサ熱、・HTLV-1ウイルス、
- ・規格外・偽造医薬品、・ギャンブル、・思春期および若年成人の健康、・トリコモナス症、・オロプーシェウイルス感染症